

松田ちゑさんは、人民政府を訪ねた。散乱した日本人の遺骨の状況を話し、なんとか自分たちで埋葬したい旨、許可を願い出た。ほとんどが「開拓民」たちの遺骨とはいえ、中国から見れば、侵略のお先棒をかついだ人たちの白骨である。まだ侵略の傷跡が癒えていない1963年、県政府は「侵略者の骨など埋葬する必要はない！」と一蹴してもおかしくない状況である。

しかし県政府はそうはしなかった。日本人の散乱した骨をどう処理していいか、残留日本人の願いにどう対処すればいいか、彼らは上部の黒竜江省政府に相談した。省政府もこの問題を簡単に片づけることなく、中央政府に判断を仰いだ。

仮に、江沢民が主席の時代だったらどう県政府や省政府は処理しただろうか。あるいは現下のような日中両政府が良好でない状況だったらどうだろうか。

松田ちゑさん自身が県政府に埋葬許可を願い出たろうか。県政府や省政府が松田さんの願いを考慮しただろうか。歴史に「もしもあの時」という設定には意味がないという。しかし、どうしてもそう考えたくなくなってしまふのである。

日本の敗戦後、全中国は国民党と共産党との熾烈な内戦状態になった。毛沢東や朱徳、周恩来の威光などがまだ轟いていない時代である。当時の在日華僑などは、アメリカ軍の後押しを受けて国民党が勝利する

だろうと睨んでいた。しかし結果は違った。中国共産党は旧満洲、東北を重要拠点と重視して全勢力を注ぎ込み、国民党を打ち破って東北地方で最

初の人民政府を打ち立てた。

当時の中国共産党は国際主義的精神が横溢してい

た。周恩来は中国人民に対して常に、「日本の軍国主義者と日本人民を区別せよ。日本人民も軍国主義の犠牲者である」と説いた。

「満洲国」時代には、日本からも各宗派の僧侶がやってきた。当然のごとく、日本人が死ねば、「満洲国」にある浄土真宗なら浄土真宗のお墓に埋葬された。当時、たくさんの日本人のお墓があったはずである。中国を侵略した日本が敗戦を迎えると、たちまち傀儡国家だった「満洲国」は崩壊した。当然のごとく、多くの日本人の墓地は一掃され、公園になったりした。

最近、ハルビンに「おキクさんの墓」があるそうだ。ぜひ参拝したいがわかるだろうか。おキクさんは、いわばからゆきさんとして満洲へ渡り、関東軍の諜報活動に携わり日本国家に「貢献した」ようである。そのおキ

クさんが死んだ時、日本支配下にあった朝鮮の新聞が彼女の死を悼んだという。

そんなおキクさんの記事を目にした年配の男性は、墓がなくても、その跡地でもわかれば詣でたいと言うのだ。たぶん、日本人のお墓は全部一掃され、今ある日本人のお墓は、方正県にしかないはずですよと答えた。もし間違いがあってはいけないとおキクさんに詳しい研究家に聞けば、かつて

の墓地はいま遊園地になっているという。

方正にある日本人公墓は、文字通り、中国で唯一の日本人公墓なのである。

中国で唯一の日本人公墓
方正日本人公墓とは何か②
方正友好交流の会事務局長・大類善啓
おおるいよしひろ



方正に立つ二つの日本人公墓
「方正地区日本人公墓」(右)と「麻山地区日本人公墓」

麻山地区日本人公墓は、避難の途中、ソ連軍に攻撃され、麻山地区で集団自決に追い込まれた、500人余りの開拓民を葬った墓で、方正地区の日本人公墓が建てられた20年ほど後に造られた。